

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第27回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「安全懇談会」

林業の作業中に発生する労働災害は残念ながら昔も今も決して少なくありません。重量のある木材を扱うこと、作業が行われる場所が傾斜地や滑りやすい場所もある山林であること、刃を持った道具を扱うことなど、様々な要因が背景にはあります。

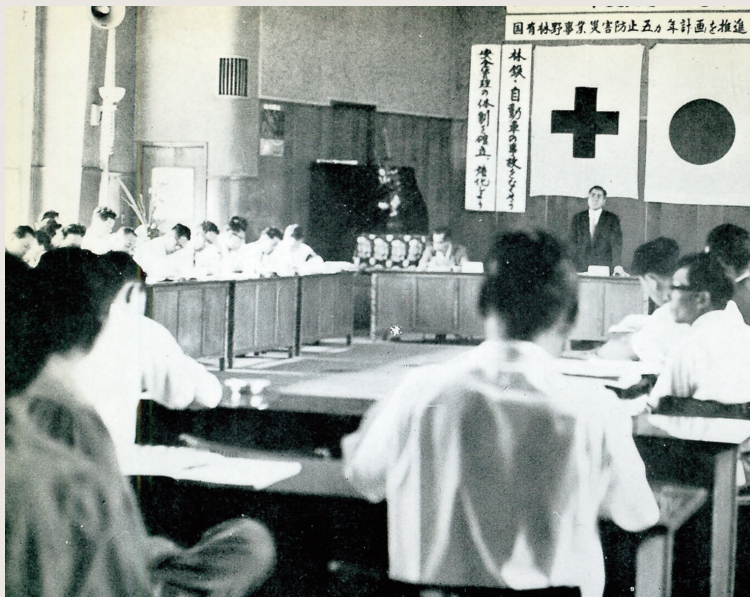


安全懇談会での実演
(昭和33年頃・旧長野営林局管内)



安全懇談会での実演
(昭和31年・現在の木曾森林管理署)

古くは現場仕事の世界では「ケガと弁当は自分持ち」などと言われ、労働災害への安全対策は働く人自身に任せられがちでしたが、時代が経つにつれて社会や職場組織でも対策が考えられるようになっていきました。



昭和36年・長野営林局安全会議の様子

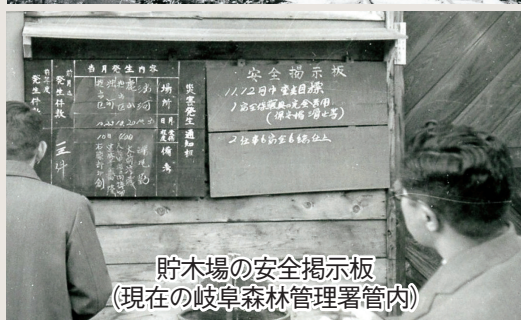
国有林でも安全懇談会、安全会議、安全大会などの名称で集会・会議が開催され、労働

災害の縮減に向けた分析、対策、注意喚起などが取り組まれてきました。特に七月一日から七日までの「全国安全週間」には昭和初期から安全に関する大きな行事が行われてきています。

また、実際に作業が行われる現場の近くを目につく場所に安全標語が掲げられたり、作業小屋に安全掲示板が設置されるなど、様々な場面で注意喚起がはかられたりもしています。



森林鉄道沿いに掲示された安全標語
(昭和30年頃・現在の木曾森林管理署管内)



貯木場の安全掲示板
(現在の岐阜森林管理署管内)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、コードを讀み込んでください。

